ねんきんだより Pensions News

保険料免除の申請は原則毎年必要

経済的な理由などで国民年金保険料の納付が困難な場合には、申請により納付が免除・猶予となる「保険料免除制度」や「納付猶予制度（20歳～50歳未満のかた）」があります。

保険料が納め忘れの状態で、障害や死亡などの不慮の事態が発生すると、障害基礎年金・遺族基礎年金が受けられない場合があります。

令和５年度の免除申請などは７月１日(土)から受け付けます。審査対象期間は７月から令和６年６月までです。なお免除・猶予が承認される期間は、納付期限から２年を経過していない期間まで、さかのぼって申請できます。

また、申請は原則として毎年度必要です。ただし、全額免除および納付猶予の承認を受けたかたは、継続申請することができます（失業などによる理由を除く）。

今まで全額免除または納付猶予の承認を受けており継続申請をしていないかた、一部免除の承認を受けていたかたは、６月で承認期間が切れています。引き続き免除などを希望する場合には申請が必要です。申請するかたは、必ず令和４年中の所得の申告またはご家族の扶養申告を済ませてください。また配偶者および世帯主の申告も済ませてください。

問合せ　太田年金事務所 ☎４９－３７１６

消費トラブルにご注意！

低価格で誘う、換気扇・エアコンクリーニングの電話に注意

【事例】

自宅に電話があり「お試し価格の３千円でエアコンや換気扇のクリーニングができる」と勧誘され、換気扇の掃除を依頼した。

業者が来訪し換気扇を掃除した後、汚れがつきにくくなるからとコーティングを強く勧められ、断れずに承諾した。すると風呂場や洗面所の換気扇もコーティングされて、約３０万円も請求された。高額だと思う。

（８０歳代 女性）

【ひとこと助言】

低価格と勧誘されても、電話の説明だけでは詳しい内容は分かりません。安易に訪問を承諾せず、いったん切って周りに相談するなどしてから判断しましょう。

電話勧誘トラブルの防止には、通話録音装置や迷惑電話対策機能が付いた電話機を使用することも有効です。

作業を依頼した場合、作業当日に追加の契約を勧誘されてもその場で決めないようにしましょう。作業時はなるべく家族などに同席してもらうと安心です。

クーリング・オフができる場合があります。困ったときは、消費生活センターなどにご相談ください。

相談は消費生活センターまで　☎８２－７８３０（ナヤミナシ）

休日当番医

期日	内科系		外科系	耳鼻科
７月２日（日）	ましも内科・胃腸科 ６２－２０２５	たけい小児科・アレルギー科※ ７６－２５２５	田沼整形外科医院 ８８－９２２３	板倉耳鼻咽喉科クリニック ８０－４３３３
７月９日（日）	寺内医院 ８８－１５１１	小西医院 ８６－２２６１	館林市夜間急病診療所 ７３－２３１３	－
７月16日（日）	田沼内科医院 ８８－７５２２	神尾内科医院 ７５－１２８８	高木整形外科 ６２－６６１１	川田耳鼻咽喉科医院 ７２－３３１４
７月17日（祝）	ハートクリニック ７１－８８１０	真中医院 ７２－１６３０	井上整形外科医院 ８２－１１３１	－
７月23日（日）	まりレディスクリニック ７６－７７７５	藤原医院 ８８－７７９７	ふじの木整形・内科クリニック ９１－４０７０	－
７月30日（日）	湯沢医院 ６２－２２０９	こやなぎ小児科※ ８０－２２２０	しんじょう整形外科クリニック ５５－３６２３	－
８月６日（日）	新井内科クリニック ２０－１２２０	うえの医院 ７２－３３３０	富士クリニック ペインクリニック ２０－１９７１	川村耳鼻咽喉科医院 ７２－１３３７
８月11日（祝）	森下内科医院 ７３－７７７６	堀越医院 ７３－４１５１	慶友整形外科病院 ４９－９０００	－

歯科	
館林邑楽歯科保健医療センター ７３－８８１８ 午前９時～正午	◆緊急　公立館林厚生病院（内科系・外科系）☎７２－３１４０ ◆コロナに関すること　群馬県受診・相談センター　☎０５７０－０８２－８２０（24時間受付） ◆夜間　館林市夜間急病診療所（内科・小児科）午後７時～10時（日・祝、年末年始除く） ☎７３－２３１３（要受診前電話連絡）

●診療時間は、午前９時～午後５時（ただし、耳鼻科の診療時間は、午前９時～午後１時）
●内科系の※は、小児科のみとなります。　●受診前に必ず医療機関に電話で確認してください。●高木整形外科は、午前中のみの診察となります。
●救急テレホンサービス　☎７３－５６９９：受診可能な病院を紹介しています。

Face フェイス

子どもたちが気づくまで待つという指導

サッカーの上達よりも人間力を育てたい

山岸英明さん

やまぎし　ひであき　54歳
大字大高嶋在住

今は監督を後任に任せ、代表という立場でクラブに関わっているそうです。

子どもが大好きという山岸さんですが、この時期は、本業のほかに、田んぼ仕事が大変だそうです。

全ての人に感謝

板倉サッカークラブジュニアの指導に携わるようになって、約25年が経ちました。これまで関わってくれた全ての人に感謝しているといいます。

山岸さん自身は、板中サッカー部に入部したことがサッカーとの出会いでした。当時の顧問の先生は大変厳しいかただったそうですが、その先生との出会いがあったからこそ、今でもサッカーに関係し続けていると思えるそうです。

選手から指導者へ

高校、大学とサッカーを続け、国体の選抜選手に選ばれたこともあったということですが、卒業後は教員となり、指導者の道を歩み始めました。

しかし30歳の時に人生を見つめ直したいと、教員をやめ、現在の職に転職をしたそうです。それからしばらくしたとき、板倉サッカークラブジュニアから声がかかりました。

指導を始めた頃は、勝つことを重視し、群馬県で優勝したこともありました。もちろんそれは素晴らしいことであり、誇るべきことですが、山岸さんの指導方針は、現在大きく変わっています。

トップダウンからボトムアップに

それは、指導者が声をかける「トップダウン」ではなく、子どもたちが自ら考え、行動する「ボトムアップ」という考え方です。

この方法は、指導者にとっては我慢の指導法です。もどかしさを覚えても、自分たちが気づくまで、待たなくてはなりません。「サッカーがうまくなるよりも、人間力を育てていきたいと思っています。そしてこの子たちが板倉に戻ってきてくれたら、もっといい町になっていく。そう信じています」という山岸さん。これからも、指導者として活躍を期待しています。

レポーター
広報編集委員
橋本玲子（はしもとれいこ）